

外来化学療法部の発足に当たり

(文責：探索臨床腫瘍学講座 助教授 柳原一広)

ご挨拶

平成15年10月6日より外来化学療法部が開始しました。

探索医療センター探索医療検証部教授、福島雅典部長の下、平成15年10月1日付で寄附講座として発足しました医学研究科探索臨床腫瘍学講座寄附講座教員として着任いたしました、柳原一広(助教授相当)、松本繁己(助手相当)、植野正也(助手相当)、北野俊行(助手相当)の計4名が専任医師として、看護部からは笹壁澄子看護師長と専任看護師としてがん化学療法看護認定看護師の中田和美副看護師長、亀野薫看護師、およびローテーションでICUより看護師1名、ならびに薬剤部2名・検査部1名(併任)・専任ヘルパー3名から構成されております。

外来化学療法部は長い間、そのリスクマネジメントの点・病院の収益性の点からも懸案になっておりました、従来の外来棟で行われていた化学療法を集約し、一元管理を図り、より安全、かつ良好な環境で化学療法を実施する目的で設立された診療部門です。場所は外来棟3階北西の3Gにあり、ベッド5床、リクライニングチェア15脚を有する治療センター、および診察室、調剤室、からなります。

比較的症状が安定していて、外来で抗がん剤治療が可能な患者さんを対象として、各科と外来化学療法部で開催される、臓器別の腫瘍カンファレンスでコンセンサスの得られたレジメンを外来化学療法部専任医師が行います。

当面はまず、外来化学療法の効率化、抗がん剤治療におけるクリニカル・パスの整備を行い、腫瘍カンファレンスの充実化、アウトカムリサーチ等から始め、現在行われている、あるいは今後多数企画されるであろう、標準的なプロトコル確立のための医師主導型の臨床試験を支援できるようなデータマネジメントが出来る環境を作成したいと思っております。

今後の予定として、今回探索臨床腫瘍学講座の開設にあたり、我々の研究費で導入した、新しいコンセプトで作成されたデータ処理システムである、サイバーフレームワークを活用して、京大病院を受診される全ての癌患者さんを登録し、そのデータベースを作成し、抗癌剤の効果並びに副作用の判定が容易に出来るようなシステム作りを目指しております。

また我が国の大学では正規の臨床腫瘍学を専門とする講座は今までになく、探索臨床腫瘍学講座がその先駆けとなり、臨床試験指導医師、臨床腫瘍医の育成だけでなく、臨床腫瘍学には不可欠の人材である、リサーチナース(RN)、クリニカル・リサーチ・コーディネーター(GRC)の育成に取り組みたいと思っております。

最後になりましたが、この外来化学療法部発足にご尽力いただきました、企画部、医療情報部をはじめとする事務部門の方々、各科の先生方、看護部、薬剤部、検査部の方々に厚く御礼を申し上げますとともに、今後のご協力も重ねてお願い申し上げます。